

2024

統合環境学特別コース

説明書

環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター
統合環境学特別コース事務局

1. 統合環境学特別コースについて

統合環境学特別コースは、平成 21 ～ 25 年度にかけて大学院環境学研究科および生命農学研究科生物圏資源学専攻を中心として実施されたグローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」で開始された博士後期課程の教育プログラムです。このプログラムでは、これまで必ずしも緊密な連携関係のなかった、「診断型」分野（地球科学、生態学、地理学など）と「治療型」分野（工学、農学、社会科学など）とを結びつけて、新しい環境学を展開する研究教育拠点の形成を目指しました。そのために、「臨床環境学」の実践と「基礎環境学」の構築とが 2 本の梁として位置づけられました。

臨床環境学とは、「具体的な地域の具体的な環境問題」を対象として、現場での診断・治療・影響評価の繋がりを観察して、相互のフィードバックのあり方を提案する、実践的な研究活動です。多分野からの横断的な研究者の参加と連携によって、初めて成り立つものです。一方、基礎環境学とは、臨床環境学を支える共通の基盤となる原理を、地域を越えて体系化してゆく学問です。

統合環境学特別コースは、博士後期課程を対象として、環境学研究科各専攻と生命農学研究科生物圏資源学専攻（当時）にまたがるコースとして平成 22 年度に設置されました。環境学研究科及び生命農学研究科森林・環境資源科学専攻または生物圏資源学専攻に所属する博士後期課程学生は、希望すれば、各専攻に所属しつつ、この特別コースを履修することができます。コースを修了した者には「修了証」が与えられます。なお、それ以外の研究科・専攻の学生については、他研究科授業科目履修願を所属研究科教務学生係と環境学研究科大学院系の双方に提出することで履修が可能ですが、正式にコースを修了することはできません。

統合環境学特別コースでは、「臨床環境学研修 1・2（ORT: On-site Research Training）」と「基礎環境学講究 1・2」が開講されます。コース修了のためには、各専攻の必要単位を取得した上で、「臨床環境学研修 1」と「基礎環境学講究 1」の両科目が必修となっています。

統合環境学特別コースは、環境学研究科附属持続的共発展教育研究センターが事務局となって運営しています。

統合環境学特別コースホームページ：

<https://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/overview.html>



また、持続的共発展教育研究センターについては以下のホームページを参照してください。

<https://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/index.html>



* 下記の通り説明会を開催しますので、興味のある方は気軽に参加してください。

（事前申込不要）

統合環境学特別コースおよび研究アシスタントに関する説明会

日時 2024 年 4 月 1 日（月） 17 : 00 ～ 18 : 30

場所 環境総合館 3 階 講義室 1（後日動画を下記に掲載します）

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/onsite/2024.html>

問い合わせ先 ies-ed@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp（統合環境学コース事務局）



2. 基礎環境学講究 1・2 と臨床環境学研修 1・2

統合環境学特別コースの授業は、多分野の院生と教員が参加して進めることで、研究室の活動だけでは得ることが難しい、環境問題を「広い視野をもって俯瞰する力」と、問題の「現場で対処する力」が同時に身につくことを念頭に考えられています。

「基礎環境学講究 1・2」は、「持続可能な社会を展望する」と題して、持続可能性とは何かということについて多面的に理解しながら、これを超越する新しいコンセプトの構築を目指します。

一方、「臨床環境学研修 1・2」は、具体的な地域を対象に、学生がチームを組んで、地域の自然と社会の持続可能性を脅かす問題を特定し、住民や行政とも連携して、解決策の探索やそれらの実施に伴う影響の予測を行う授業です。具体的には、現地実習を含めた実践的な研修を学生チームで進めます。フィールド研修を中心として、その前後の大学でのセミナーを通じて内容を深め、成果をレポートにまとめ、報告会を行います。

基礎環境学講究 2 および臨床環境学研修 2 は、それぞれ基礎環境学講究 1、臨床環境学研修 1 の単位取得者が履修することが可能で、選択科目となります。

授業は、基礎環境学講究 1 と基礎環境学講究 2、臨床環境学研修 1 と臨床環境学研修 2 をそれぞれ同時に行います。

2024年度 基礎環境学講究1・2

タイトル

SDGsを理解する

担当教員

高野雅夫（環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター・教授）

加藤博和（環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター・教授）

張馨（環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター・講師）

目的・ねらい

持続可能な社会づくりのため、分野を横断して、さまざまなステークホルダーとともに環境問題の診断から治療までを行い、問題解決を行う新しい学問—臨床環境学—を提案・構築してきました。基礎環境学講究では、この臨床環境学を支える体系としての基礎環境学とは何かについて、教員・学生双方で意見を交換し、考えを深めていきます。具体的には、「持続可能な社会を展望する」と題して(1)持続可能な開発とは何かテキストを通じて学びます。(2)臨床環境学とは何かテキストを通じて学びます。(3)2015年に国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）を学び、自らの研究と照らし合わせて議論するため、次の項目について発表し、共有します。

授業内容

月1-2回、1回1.5時間程度のセミナー形式とします（受講生と教員のスケジュール調整のうえ決定します）。

(1)John Blewitt “Understanding Sustainable Development” 3rd edition, Routledge, 2018. を読み、持続可能な開発の概念、取り組みの歴史、到達点と課題について学びます。セミナー形式ではなくワークショップ形式で参加者が学んだことや疑問に思ったことを共有し深めます。

(2)渡邊他編『臨床環境学』名大出版会、2014年、第4章「臨床環境学の提唱と課題」を読み、臨床環境学の概念と方法論を学びます。

(3)SDGsの17の目標のいずれかを選び、その内容を紹介するとともに、自身の研究とのつながりを考察して発表します。

基礎環境学講究の受講対象となる学生は、さまざまな学問分野において博士研究を行っています。自らの研究テーマが、さまざまな学問分野、そして国内外の具体的な環境問題とその解決に向けた実践活動とどのように結びついているか、理解を深めてもらいたいと考えています。

受講希望者は以下の説明会に参加してください。

統合環境学特別コース説明会 2024年4月1日（月）17:00-18:30 環境総合館3階講義室1（後日動画掲載）

教科書

John Blewitt “Understanding Sustainable Development” 3rd edition, Routledge, 2018.

渡邊他編『臨床環境学』、名古屋大学出版会、2014年

授業言語

- ・スライド・資料：日英併記
- ・口頭説明：日英両方
- ・英語による質問への対応：可

2024年度 臨床環境学研修1・2

タイトル

伊勢湾流域圏 ORT

担当教員

加藤博和（環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター・教授）

平野恭弘（環境学研究科・地球環境科学専攻・准教授）

河村則行（環境学研究科・社会環境学専攻・准教授）

宮坂隆文（環境学研究科・地球環境科学専攻・講師）

張馨（環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター・講師）

山下博美（環境学研究科・客員教授）ほか

受け入れ可能な学生数

20名程度

※日本のことを学びたい留学生、本フィールドを研究対象としたい学生の参画を期待する。

目的・ねらい

俯瞰的な視野を持ちながら環境問題の現場で実践的に取り組むことのできる専門家を育てることを目的に行うフィールド授業（On-site Research Training: ORT）です。環境学研究科と生命農学研究科の博士後期課程に設置されている「統合環境学特別コース」の必須授業であるとともに、「名古屋大学大学院6研究科連携 ESD プログラム」の授業としても位置付けられ、コース以外の学生も自由に参加できます。

伊勢湾流域圏を対象に、多分野・多国籍の院生と教員でチームを組み、地域の自然と社会の持続可能性を脅かす問題を現地調査によって特定し、住民や行政とも連携して、解決策の探索やそれらの実施に伴う影響の予測を行うプログラムです。

個別の環境問題の解決を目指した多分野融合の取り組みに受講生が主体的に参加することで、環境問題の全体構造の複雑さと、それを理解し解決することの難しさ、また真の解決に向けて必要な課題の数々を、実践的に体得することができます。こうした取り組みは、環境学の統合的研究のプロジェクトリーダーなど優秀な研究者の養成はもとより、国際的な環境実務・環境技術者、行政・企業の環境担当官など、環境学の内外において活躍できる力の育成につながると期待されます。

実施内容

2024年度は三重県鳥羽市を対象地域とし、定期もしくは集中形式で研修を実施します。内容は、

- 1) 学内における事前検討
- 2) 全員による現地視察（2泊3日間）
- 3) 個別の班に分かれたテーマ別調査
- 4) 問題解決にむけた総合的な処方箋の取りまとめ
- 5) 現地における処方箋の公開と影響評価シミュレーション

などからなります。

臨床環境学研修の受講対象となる院生は、対象地域の環境問題について、今、博士論文を作成している院生ではありません。むしろ、他の地域を対象に研究を行っており、対象とする地域やその問題を良く知らなかったり、大循環モデルを用いた気候シミュレーションなど、野外調査とは無縁な研究を行ったりしている院生に積極的に研修に参加してもらい、自らの研究テーマが国内外の具体的な環境問題とどのように結びついているか、理解を深めてもらいたいと考えています。

スケジュール

【説明会】 4月下旬（決定次第 HP で告知）説明会を実施する。（HP は 1 ページ目参照）

【定例会】 5～12月に各月に1回開催する。ガイダンスや進捗確認のほか、中間報告会や学内報告会を実施する。

【事前学習会】 5月に開催する。対象地域を訪れる前にフィールドに対する理解を深めるべく、各自が対象地域について興味を持ったことを文献調査し、発表しあうことで、問題意識を共有するとともに、互いの専門分野の違いと共通点を認識する。

【現地見学合宿】 6月頃に2泊3日間（予定）で開催する。まず、地域の行政職員やNPO、住民等から話をうかがい、地域が抱える問題を把握する。その後、グループごとの興味にしたがって実際に現地を見て回る。以上を通じて得られた情報をもとに、グループのテーマを決定する。

【現地報告会】 12月（予定）に日帰りで開催する。ORT で得られた内容を、現地の行政職員やお世話になった方に向けて報告し、フィードバックする。

【報告書の作成】 現地報告会后、グループごとにレポートを作成する。締切は1月。

※各グループの現地調査は、現地見学合宿（6月）以降現地報告会までの間にそれぞれ実施する（グループ実習）。

※単位取得条件としては、原則として上記すべてに参加することを求める。

全体行事のスケジュール概要

月	予定	内容
4月	説明会	コース、授業内容について
5月	5月定例会	ガイダンス・グループ分け
	事前学習会	対象地域について興味を持ったことを調べ、発表しあう。
6月	6月定例会	事前学習会を踏まえた現地見学会の準備
	現地見学合宿	2泊3日間かけて対象地域を見学する。
7月	7月定例会	進捗確認 等 (現地調査は中間報告会までにグループごとに個別で行う)
8月	8月定例会	進捗確認 等 (現地調査は中間報告会までにグループごとに個別で行う)
9月	9月定例会 (中間報告会)	調査内容と得られたデータに関する簡単な報告
10月	10月定例会	進捗確認 等
11月	11月定例会 (学内報告会)	他のORT受講生や教員を招き、得られた成果を発表する
12月	現地報告会	自治体や現地調査でお世話になった方を招き、現地で成果を報告する
1月	(レポート締切)	現地報告会后、班別にレポートを執筆し、それをまとめた報告書を編纂する

授業言語

- ・スライド・資料：日英併記
- ・口頭説明：日英両方
- ・英語による質問への対応：可

その他

必ず学生向け保険（日本国際教育支援協会「学生教育研究災害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」）に加入しておいてください。

これまでのORTでのテーマ

- 2011年度
- A班 櫛田川の鮎の持続的利用に関する研究
 - B班 シカの活用と流通に関する研究
 - C班 茶畑での“松阪牛液肥”利用で変わる櫛田川流域の環境
 - D班 多気町の住環境の現状と未来への提案

- 2012 年度 ■まち班 松阪商人の心に火をともしー賑わいある中心市街（商店街）のあり方を探るー
■いなか班 伊勢茶の新たな挑戦ー海外輸出の可能性
- 2013 年度 ■離島の持続可能性に関する研究ー答志島を対象としてー
■干潟の生態学的・社会的利用の転換
- 2014 年度 ■外部ボランティアの参加する地域活動の持続可能性ー"元開"集落になる秘訣ー
- 2015 年度 ■マラニックと純米酒でおもてなしー恵那市岩村町富田地区の 20 年後に向けてー
■数の力ー魅力的な恵那を創り出すための NPO 間協力ー
- 2016 年度 ■恵那市における森林管理：NPO の役割と森林組合の役割
- 2017 年度 ■持続的な中山間地域のための森林資源の価値連鎖ー岐阜県加茂郡東白川村の事例からー
■バッファゾーンの設置・管理を通じた地域づくりの提案
- 2018 年度 ■Social Acceptance of Newcomers in Shirakawa Town and Higashi Shirakawa Village
(白川町と東白川村における移住者の社会的受容)
- 2019 年度 ■Communication Potentials for Bridging between Locals and Migrants in Kiso Town, Nagano
Prefecture
(長野県木曾町における住民と移住者の橋渡しのためのコミュニケーションの可能性)
- 2020 年度 ■木曾町におけるバイオマスエネルギーに関する小学生の意識調査
- 2021 年度 ■Classification of Ponds in Higashiura Town and their Relationship with Land Use Type
(東浦町におけるため池と土地利用、保全および関連する生態系サービスの分析)
- 2022 年度 ■持続可能な住民活動のための竹林管理計画手法の研究ー東浦自然環境学習の森を事例としてー
- 2023 年度 ■地域の足を確保するための新たな交通サービスの提案ー相差町を事例にー
■三重県鳥羽市を訪れる外国人観光客の特徴・動機・評価

3. 統合環境学特別コースへの参加申請について

統合環境学特別コースへの参加希望者は、1節・2節・(4節)を熟読の上、「2023年度統合環境学特別コース参加申請書・兼研究アシスタント(パート雇用)申請書」(以下、申請フォーム、4節の後にあります)に記入して提出してください。応募者が多数の場合は書類選考を行います。

申請フォームの入手

以下のURLに申請フォーム(Word)が置いてありますので、ダウンロードしてください。
記入の際、項目の選択肢に該当がない場合は、直接タイプしてください。

URL : <https://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/jpn/course/onsite/application2024.html>



申請書類のメール送付

記入後、電子メールに添付し、タイトル(subject)は「IESC/RAの応募」とし、下記の送付先アドレスに下記の期限までに送って下さい。なお、応募と同時に指導教員にメールの写しをカーボンコピー(CC)でお送りください。

送付先アドレス :

生命農学研究科の学生 : kyomu@agr.nagoya-u.ac.jp

環境学・その他の研究科の学生 : env@t.mail.nagoya-u.ac.jp

期限 : 2024年4月11日(木) 17:00

備考

コース応募者は、参加申請とは別に各研究科大学院係・教務係で忘れずに履修登録をしてください。

問い合わせ

統合環境学特別コース事務局(環境総合館421号室)

電子メール : ies-ed@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp



4. 研究アシスタントの募集について

今年度、統合環境学特別コース（博士後期課程）に登録が認められた学生に対して、研究アシスタント（パート雇用）を雇用します。積極的に統合環境学特別コースでの研究に携わってくると認められる方を研究アシスタントとして雇用します。本コースでは、環境学全体を俯瞰的・複眼的に見ることで、自発的に新しい問題に取り組み、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。

研究アシスタントの待遇・募集人員

今年度は5月～2月の10ヶ月間の採用を予定しており、その間の概算給与合計額は15万円を予定しています。募集人員は3名程度を目安にしています。

職務内容

統合環境学特別コースでの研究の推進。具体的な業務は次のようなものです。

- ・臨床環境学研修1・2／基礎環境学講究1・2授業の企画運営の補助等。
- ・統合環境学特別コース関連行事への参加（準備、運営補助を含む）。

応募資格

- ・名古屋大学大学院博士課程（後期課程）に在学し、定められた時間数の勤務が可能であること。
- ・統合環境学特別コースに参加申請をしており、臨床環境学研修1・2／基礎環境学講究1・2に出席すること。
- ・採用された場合に、指導教員が環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター（統合環境学特別コース運営主体）の協力教員となること。（指導教員に事前に確認して了解を得てください。現時点で協力教員でない指導教員に対しては、採用決定後、統合環境学特別コース事務局担当教員より指導教員にご連絡します。）
- ・日本学術振興会の特別研究員として雇用されていないこと。
- ・名古屋大学内で雇用されていないこと。（研究員・研究アシスタント・RA・技術補佐員・事務補佐員等として、学内で何らかの給与・謝金を貰っている方は必ず事前にご相談ください。名古屋大学の直接雇用に限らず、科研費等の外部資金で雇用されている場合も含まれます。場合によっては、採用後に取り消しとなることがあります。TAとして採用されている方も勤務時間等の確認が必要となりますので必ずご連絡ください。）

採用期間

2024年5月13日～2025年2月28日（事務手続き等で期間変更の可能性あり）

提出書類

統合環境学特別コース参加申込書・兼研究アシスタント（パート雇用）申請書」（以下、申請フォーム）を電子メールに添付してご提出ください。申請フォームは統合環境学特別コース参加申込書と兼用ですので、入手・メール送付については3節に準じてください。タイトル(subject)は「IESC/RAの応募」とし、応募と同時に必ず指導教員にもカーボンコピー(CC)でメールの写しを送ってください。

書類送付締切

2024年4月11日（木）17:00

書類送付先宛先メールアドレス

生命農学研究科の学生：kyomu@agr.nagoya-u.ac.jp

環境学・その他の研究科学生：env@t.mail.nagoya-u.ac.jp

問い合わせ

統合環境学特別コース事務局（環境総合館421号室）

電子メール：ies-ed@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp

その他の注意点

1. 研究アシスタント応募者は統合環境学特別コース（臨床環境学研修1と基礎環境学講究1は必修科目）に登録することが必要です。臨床環境学研修1・2と基礎環境学講究1・2への参加が必須になっていますので、応募者は各研究科で履修登録をしてください。
2. 応募するには指導教員の承認が必要です。事前に指導教員と相談し、応募書類をメールで送る際には同時に必ず指導教員にもカーボンコピー（CC）を送ってください。
3. 研究アシスタントに採用された者は、職務を遂行する義務と責任を負いますので、勤務実績が伴わない場合には、途中で採用を取りやめることがありますので注意してください。
4. 月あたりの給与が他の収入（日本育英会等の奨学金は収入とみなされないの、それを除く）と併せて8.8万円を超える場合は所得税がかかります。
5. 年間収入が130万円を超えると、健康保険も扶養から外れ、ご自身により国民健康保険に加入することが必要になる場合があります。（留学生は、国民健康保険に加入することになっています。詳しくは名古屋大学国際教育交流センターにお問い合わせください。）
6. 日本学術振興会の特別研究員もしくはそれに内定している人は、応募することはできません。
7. 研究アシスタントを、他の名古屋大学内の雇用（名古屋大学の直接雇用に限らず、科研費等の外部資金で雇用されている場合も含む）と兼ねることはできません。研究員・研究アシスタント・RA・技術補佐員・事務補佐員等として、学内で何らかの給与・謝金を貰っている方は必ず事前にご相談ください。採用後に取り消しとなることがあります。TAとして採用されている方も勤務時間等の確認が必要となりますので必ずご連絡ください。
8. 選考に際しては、博士在学期間が3年以内（休学期間を除く）の人を優先します。
9. 来年度以降の雇用については、年度毎に募集・選考を行いますので、継続は保証されません。ただし、今年度の研究アシスタントとしての実績は、来年度研究アシスタントに応募された場合、選考の重要な判断材料となります。
10. 統合環境学特別コース事務局からの連絡・問い合わせ等は、主にメールで（申請書に記入されたメールアドレス宛に）行います。
11. 国費外国人留学生の方は、必ず申請書の該当欄にその旨記載してください。（研究アシスタントとして採用を制限するものではありません。）
12. 国費外国人留学生が他の奨学金を受け取ると国費外国人留学生奨学金が支給停止になります。旅費の一部も奨学金とみなされますので、出張時に書類に「国費外国人留学生」と明記が必要です。

統合環境学特別コースおよび研究アシスタントに関する Q&A

Q1. 統合環境学特別コース修了要件単位の 10 単位の内訳についての質問です。必修である基礎環境学講究 1 (2 単位)・臨床環境学研修 1 (2 単位) の他には具体的にはどのように単位を取得したらよいのか教えてください。

A1. 環境学研究科の学生は、統合環境学特別コースの授業だけで取得しなくてもよく、研究科のその他の授業（研究室のセミナー（ゼミナール））の単位も合わせて 10 単位取得できればよいです。
生命農学研究科の学生は、詳細については教務学生係に問い合わせてください。

Q2. 基礎環境学講究 1 の単位を取得しないと 2 を履修出来ない、臨床環境学研修 1 の単位を取得しないと 2 を履修出来ないとあり、一方で、基礎環境学講究 1 と 2、臨床環境学研修 1 と 2 を同時に行くとありますが、意味がよくわかりません。

A2. ある学生が、1 年目に受講した基礎環境学講究、臨床環境学研修をそれぞれ 1 とし、翌年度以降 2 度目に受講する場合それぞれを 2 とします（1 年目に単位取得している場合）。
同じ授業で、基礎環境学講究 1 を受講している学生と、基礎環境学講究 2 を受講している学生が混在することになります（あるいは臨床環境学研修 1 と臨床環境学研修 2）。

Q3. 研究アシスタントの応募資格に、「名古屋大学内で雇用されていないこと。（…中略… TA として採用されている方も勤務時間等の確認が必要となりますので必ずご連絡ください。）」とありますが、TA として採用されている場合の制限について教えてください。

A3. 研究アシスタントと TA は兼務することが可能ですが、研究アシスタントの勤務、TA の勤務、両方合わせて、月あたり 17 日間を超えない、週あたり 19 時間を超えない、1 日当たり 7 時間 45 分を超えない、6 時間を超える場合は休憩を 1 時間入れるという制限があります。

研究アシスタントの勤務時間は週 3 時間を予定しています。また原則 5 月から翌年 2 月までの雇用期間となります。他の学内雇用との関係で、異なる雇用期間を希望する場合は、申し出てください。

勤務日と時間は、研究アシスタント毎に、採用時に研究室のセミナー等と重ならない時間に設定します。毎週同じ曜日・時間になり、基本的に変更は出来ません。

TA の勤務時間はこちらで把握出来ませんので、それぞれの TA の勤務時間をご自分で正確に把握し、研究アシスタントの勤務と重ならないように、また勤務時間の上限を超えないように調整していただく必要があります。

また、研究アシスタントは基礎環境学講究・臨床環境学研修の参加が義務付けられていますので、そちらの時間も調整が必要です。

TA に採用されている方が研究アシスタントに応募される場合は、必ず TA として採用されていることをお知らせください。

Q4. ORT で学外実習に行く場合、旅費は支給されますか？

A4. ORT で学外実習に行く場合は、授業としての参加になりますので、実費分の負担をお願いしています。
ただし、ORT の研究に関わる出張をする場合は、名古屋大学規定により旅費（日当・宿泊費・交通費）が個人の登録口座宛に支給されます（宿泊費・交通費を大学から直接旅行業者に支払う場合もあり）。出張の場合は、旅行保険料は個人負担になります。

Q5. 環境学研究科のガイダンスで、学位は「博士（理学）」と「博士（環境学）」を選ぶことができると聞いたのですが、統合環境学特別コースに参加すれば「博士（環境学）」の学位を取得できるようになるのですか？

A5. 統合環境学特別コースは学位の種類に関わらず、参加できます。環境学研究科では、研究科共通科目、即ち、この統合環境学特別コースの科目を、2 単位以上取得した学生に対しては、学位取得時に、博士（環境学）を申請することができることになっています。ただし、コースに参加すれば「博士（環境学）」が保証されるという訳ではありません。また、学位の種類は指導教員と十分話し合ってください。

Q6. 各クラスの使用言語について教えてください。

A6. 英語対応授業です。具体的な対応の内容はケースバイケースで、参加者の構成にもよりますが、各クラスで工夫をし、サポートを行うので、日本語がわからないので参加できない、英語が苦手なので参加できないということにはなりません。

Q7. 他研究科（工学・国際開発・経済学など）所属ですが、統合環境学特別コースに参加、修了することはできますか？

A7. 統合環境学特別コースの授業（基礎環境学講究、臨床環境学研修）を履修する場合は、所属研究科教務学生係と環境学研究科大学院系の両方に他研究科授業科目履修願（指導教員および科目担当教員の押印が必要）を所定の締切日（4月中旬）までに提出する必要があります（締切日は各研究科教務担当係にご確認ください）。

ただし、統合環境学特別コースは、環境学研究科（地球環境科学専攻・社会環境学専攻・都市環境学専攻）・生命農学研究科（森林・環境資源科学専攻または生物圏資源学専攻）に設置されたコースのため、その他の研究科・専攻に所属されている方は、統合環境学特別コースを正式に修了することはできません。

また、研究アシスタントになるには、基礎環境学講究、臨床環境学研修へのアドバイザー役としての参加（学生としての授業登録・履修・単位取得ではありません）が必須となるため、コースへは準登録という形で参加していただくこととなります。

Q8. 留学生会館でチューターをしていますが、研究アシスタントになることはできますか？

A8. 留学生会館のチューターは事務補佐員という身分になりますので、研究アシスタントとは兼務することが出来ません。

同様に、技術補佐員として採用されている方も研究アシスタントとは兼務できませんので、名古屋大学から給与が支給されている方は、その職の正式な身分を確認してください。

Q9. 統合環境学特別コースを途中で続けることができなくなった場合、研究科修了の可否にも関わってくるのでしょうか？

A9. 研究科の修了は、統合環境学特別コース修了かどうかにかかわらず、各研究科の修了要件を満たせば可能です。

Q10. 海外派遣等で、2か月不在になる場合はどうしたらよいでしょうか？

A10. 不在期間がわかり次第、基礎環境学講究および臨床環境学研修の各担当教員、加えて統合環境学特別コース事務局にご連絡をお願いいたします。申請時にわかっているようでしたら、申請書にその旨ご記入ください。

研究アシスタントとして採用されている場合、1か月以上欠勤する場合は、一旦退職し、復帰する際に再採用の手続きを取ります。

Q11. 「統合環境学特別コース修了証」の申請方法、いつ受け取ることができるのか教えてください。

A11. 「統合環境学特別コース修了証」は、研究科修了時もしくは単位取得中退（満了）時、または博士後期課程3年目の終了時に、所定の単位修得者は、「統合環境学特別コース修了申請書」を、環境学研究科所属学生は大学院係窓口へ、生命農学研究科森林・環境資源科学専攻または生物圏資源学専攻の学生は、教務学生係窓口へご提出ください（提出締切日・書式等詳細は、修了申請時期になりましたら、ご案内いたします）。

統合環境学特別コース修了申請には、後期課程授業科目から「基礎環境学講究1」「臨床環境学研修1」を含む10単位以上を取得していることが条件となります。

ただし、2010年4月以前に入学（進学）した学生、および環境学研究科三専攻または生命農学研究科森林・環境資源科学専攻または生物圏資源学専攻以外の学生は、統合環境学特別コースを正式に修了することはできません。

統合環境学特別コース参加申請書・兼研究アシスタント（パート雇用）申請書
Application Form for the Integrated Environmental Studies Course & Research Assistant

日付 Date: Year 2024 (令和6年) Month 4月 Day 日

氏名（フリガナ）： Name & Kana			
学籍番号： Student No.		性 別 Sex	
生年月日： Date of Birth		学年： Year of doctoral course	
博士後期課程に入学／進学した年月： 年 月 Date on which enrolled on doctoral course: (休学がある場合は期間を明記： 年 月 ~ 年 月) Please indicate the dates when you were not enrolled in the university, if so.			
所属研究科・専攻・研究室： _____ 研究科 _____ 専攻 _____ 研究室 Current affiliation: Graduate school of: _____ Department of: _____ Laboratory of: _____			
連絡先 Contact details メールアドレス E-mail: _____			
携帯電話番号 Celluar No.		内線 Extension No.	
居室 Your Room in NU 建物名称 Building Name: _____		部屋番号 Room No. _____	
主指導教員 About your research supervisor: 氏名 Name: _____		職 名 Position _____	
メールアドレス Email: _____		内線 Extension No. _____	
博士課程での研究テーマ:			
<input type="checkbox"/> 統合環境学特別コースに参加（登録または準登録）を希望します。 <input type="checkbox"/> I wish to be enrolled in the Integrated Environmental Studies Course			
令和6年度研究アシスタント雇用について（該当する方の口をクリック） Do you wish to apply for the Research Assistant for AY2024? <input type="checkbox"/> 雇用を希望する Yes <input type="checkbox"/> 雇用を希望しない（コースのみ参加） No * 研究アシスタントとなるためには基礎環境学講究と臨床環境学研修の両方への参加が必要です。 * 採用予定期間 令和6年5月13日～令和7年2月28日（採用期間については応相談） * Research Assistant are required to take both CBES1/2 and ORT1/2. * Employment period: May 13, 2024 to February 28, 2025 (tentative)			
留学生の方はご記入ください。 International students only 国籍 Nationality: _____			
在留期間 Period of Stay:		在留期限 Date of expire:	
許可年月日 Date of permit:			

国費外国人留学生ですか？

Are you a Japanese Government(MEXT) Scholarship program international student?

はい Yes・ いいえ No

博士課程での研究計画および統合環境学特別コースにおける研究活動の推進についての抱負

前記課題をどのように展開するのかを、この枠の範囲で簡潔に記載してください。

*研究アシスタントを希望の有無にかかわらず記入してください。

PERSONAL STATEMENT

Please tell us briefly about your research plans for your doctoral course, and how you would promote research activities in the Integrated Environmental Studies Course in this frame.

* Please fill this column regardless of your wishing or not to apply for the Research Assistant.

この申請書を電子メールで送る際、同時に必ず指導教員にもカーボンコピー(CC)を送ってください。
Please make sure to CC to your research supervisor when you send this form by email.